

児童心理治療施設 若竹学園

令和4年度 事業報告

1、重点課題について

(1) 分校化の推進について

令和3年12月より高松市教育委員会と若竹学園学校教育充実検討会を重ね、分校開設準備を進めてまいりました。

＜建物について＞

以下の流れで建設を進めました。

令和4年5月10日 実施設計契約先の有限会社市原建築設計事務所と
工事監理業務契約。

令和4年6月16日 工事業者の指名業者入札を行い、株式会社高岸工務店に決定。

令和4年7月22日 高岸工務店と契約後、工事に着工。以降、月2回定例会を行う。

令和5年2月28日 分校建物が竣工。

令和5年3月20日 卒業式を、分校多目的ホールを使用して挙行。

＜分校設置について＞

令和4年12月 高松市議会に於いて、高松市立下笠居中学校五色台分校並びに高松市立下笠居小学校五色台分校の設置が決定。令和5年4月7日に落成式並びに開校式を行うことが出来ました。

(2) 内部研修の充実について

施設内虐待防止の一環として県に講師派遣を依頼し、子どもの権利擁護に関する研修を行いました。

非常勤セラピスト（元児童相談所ケースワーカーであり公認心理師と臨床心理士資格を有する）を講師としたトラウマインフォームドケアに関する研修、子どもの人権に関する研修を行いました。

内部研修を通し、子どもをより理解し支援者としてのあり方を学ぶことで、支援技術の向上に努めました。

2、子どもの受け入れ状況等について

在籍13名でスタートし、年度末は11名でした（小学生3名、中学生8名）。

中学3年生1名を含む3名が、3月末に退園しました。1名は家庭復帰し、2名は亀山学園に措置変更しました。中学校3年生3名は、希望する公立高校に全員合格しました。児童相談所からのニーズもある高校生の受け入れ体制を整え、2名は学園で継続支援することになりました。また子どものニーズを考え、令和5年度より村上学園高等学校（通信制）と連携し、学園内に教室を設けることが決定しました。

4、生活部門について

分校建物建築期間中、仮教室を学園内に設けました。工事期間中は、園庭で遊ぶことが難しく、スポーツや遊びに工夫が必要でした。屋上運動場、県営グラウンド、河川敷グラウンドを利用することで子どもたちの健全な育成に努めました。

行事は、子どもたちが自主的に活動出来る事を目標に実施しました。子どもたちの意

見を取り入れ、内容も考えました。キャンプは、初めて祖谷溪キャンプ村を利用し、川遊びを楽しむことが出来ました。テントの張り方、包丁の使い方等の手順書を準備したことで、子どもが自分の力で出来るが増えたのが良かった点です。夏祭りは、コロナ状況も鑑み、今年度も子どもと職員だけで実施しました。

少人数での活動、成長に応じた活動にも力をいれました。家族療法棟を活用し、中学3年生及び家庭復帰予定の中学2年生に自立に向けた生活訓練を行いました。自分で時間管理を行い、起床、登校、就寝を自主的に行いました。職員と一緒に事前準備を行い、手順書・日課を作り、1人で掃除や朝食作りが出来るよう支援しました。

定期的に（月2回）コンサルテーションを実施しました。スーパーバイザーに助言をいただき、具体的な支援方法の検討を行い、自立支援計画を作成しました。自立支援計画を基に児童相談所職員に働きかけ連携し、家庭復帰に向けて保護者と子どもを支援しました。保護者、子ども、児童相談所職員、学園職員で帰省前後の面接を行い、目標を持った帰省が出来るようにしました。家庭訪問を実施し、家の間取りや生活時間を具体的に把握し、家庭復帰後の生活を想定した支援を行いました。子どもの希望と保護者の考えが一致するよう関係調整することで、家族関係の改善がみられました。計画に基づく支援の結果、3月末に家庭復帰することが出来ました。

日本舞踊師範の方のご厚意（ボランティア）で日本舞踊を継続して実施し、お茶や裁縫も教えていただきました。子どもたち一人一人が自分のことを認め、自己肯定感が育まれる大切な時間になっています。女子だけでなく、中学生男子が興味を持ち熱心にお茶、日本舞踊に取り組むことが出来ました。

5、心理部門について

内部研修（トラウマインフォームドケア）及びスーパーバイズを継続して実施しました。職員が子どもの背景を理解し、自分の支援について見直す機会になりました。

心理会議を実施し、非常勤セラピストの助言の基、個のセラピーの進捗状況を確認し生活支援に役立てる情報の提供を継続して実施しました。

亀山学園セラピストと合同で毎月、心理専門家（元香川大学教授：小柳 晴生先生）によるスーパーバイズを継続して実施、心理面接技術の向上を図りました。

非常勤セラピストによる臨床動作法を希望者に実施しました。子どもたちは、自分の心身の状態に気付き受け入れていくことで心の安定につながっています。

グループワークの一環として、家族療法棟を活用し心理職員によるクッキングセラピーを行いました。コミュニケーション力向上と自尊感情の回復をテーマに実施し、子どもは楽しんで取り組むことが出来ました。

ソーシャルスキルトレーニングを実施しました。子どもの特性に応じて、感情カード（視覚化）等を活用し、自分の気持ちに気付き、相手の気持ちが想像できるよう支援しました。

心理療法が効果的に実施出来るよう、面接室・遊戯療法室の物品整理を行いました。

6、社会貢献

「五色台子どもおもてなし拠」のベンチとテーブルの修繕を子どもと職員で行いました。今後、お接待活動を再開し、子どもが地域とつながり社会貢献が出来るよう努めてまいります。